

CCBJニュースレター第97号  
2022年6月30日

会員の皆様、

パンデミックをめぐる状況が世界的に改善してきています。  
政府の指針に従って、企業は人流抑制とソーシャルディスタンス確保のため、引き続き交代勤務や在宅勤務などの措置を実施しています。  
CCBJでも対面による活動を段階的に再開できればと考えております。  
会員の皆さまもブラジル式の談笑をする機会を楽しみにされていること  
でしょう。

今号では、独立行政法人国際協力機構（JICA）海外移住資料館の中根卓  
館長に、日本人の海外移住の歴史についてご寄稿いただきました。  
同館は日系人にとって非常に興味深い施設ですので、皆様も是非訪れて  
みてください。

そのほかにもブラジル国内の開業状況や、PwCが行った企業のESGへの  
取り組みに関する調査、アマゾン地域のイノベーションプログラムにつ  
いての記事も掲載しましたのでご覧ください。

それではどうぞよろしく申し上げます。

CCBJ会頭  
行徳セルソ

(寄稿)

JICA横浜 海外移住資料館リニューアルオープン～すべての人が楽しめる  
展示へ

独立行政法人国際協力機構 ( JICA ) 横浜 海外移住資料館館長  
中根 卓氏

独立行政法人国際協力機構 ( JICA ) 横浜 海外移住資料館 ( 館長：中根  
卓 ) は、横浜みなとみらい地区にあります。

今は年間数百万人の観光客が訪れる地ですが、昔は日本人移民の多く  
が出発することから、移民宿が立ち並ぶ場所でした。

JICAは1993年まで海外移住者送出業務を手掛けていましたが、その後  
は戦後の国の政策による主に中南米への移住者に対して、移住先国での  
定着と生活の安定を図るための支援を行っていました。

そして、中南米の日系社会と日本を繋ぐ事業の一つとして2002年に資  
料館を開館いたしました。

以降、広く日本の方々に、日本の海外移住の歴史、移住者が移住先国  
や日本に対して果たした役割や貢献、移住者と日系人の現在の姿を知っ  
ていただき、20年目を迎えた2022年4月にリニューアルオープンしまし  
た。

開館20年の節目となる今年、下記3点を基本方針として、2022年4月  
26日 ( 火 )、リニューアルオープンしました。

1. 移住者を含む日系コミュニティの姿 ( 過去と現在 ) を分かりやすく伝  
える

戦時中の立ち退きや強制収容  
の様子を伝えるコーナー



当館が収蔵している貴重な資料を今回新たに追加しました。また、日本人の海外移住の歴史における重要なトピック（戦時中の強制収容や勝ち負け抗争\*等）に関する展示内容を充実させ、さらに今日の日系人や日系社会、日本と海外の絆を紹介するコーナーを新設し、日本人移住者やその子孫に関する歴史や今日の姿をより分かりやすく伝える展示としました。特に、日系人と日系社会の移り変わりについては、多くの資料を所蔵しているブラジルを例に解説しています。

\*勝ち負け抗争：大戦後のブラジルで、日本の戦勝を信じる、信じないで

日系社会が分断し、暗殺事件にまで発展

2.



これからの多文化共生に向けたヒントを提示

移住先で互いの文化を尊重し共存・共栄を目指した先達に関する展示から、多文化共生社会の実現を目指す上でのヒントを読み解く事が出来ます。また、日系にルーツを持つ方が比較的多い、群馬県大泉町、静岡県浜松市、横浜市鶴見区の展示、国内外で活躍する日系人へのインタビュー映像等から、私たちが多様な生き立ちを持つ人びとと共に生活していることを感じながらこれからの社会をどう形成していくかについて考えるきっかけになる事を目指しています。

3.



幅広い層に理解される展示を目指す

トリックアートでリアルに再現！  
アリアンサ移住地（ブラジル）\*

今回、ユニバーサルデザインの強化も図りました。トリックアートや3面映像シアター等の体験型展示の充実化や、点字ブロック（館内・外）の設置、触察案内図・点字台・触れる展示の設置のほか、音声ガイドも導入しました。また、子ども用の解説やSDGsシールの追加、ノートの記入や調べものができる体験学習コーナー（8名程度の利用を想定）を新設し、校外学習等でご活用頂けるようにしています。

※施設内には20名以上で利用のできる学習スペースもございます。

1956年に外務省移住斡旋所が横浜市根岸に開設されたことから、多くの日本人移民が横浜港から旅立っていきました。その地に位置する海外

移住資料館では、これからも日系人や日系社会について皆さまに情報発信を行ってまいります。新しくなった資料館にぜひお立ち寄りください。

また、資料館は、JICA横浜の2階にございますが、3階には眺めの良い（かつビールが飲める）カフェテリアもございます。日本人の海外移住の歴史、その歴史を通じたブラジルの姿を見ていただいた後、3階のカフェテリアで移住された方々の時代に想いを馳せつつ、今の横浜を眺めるのはいかがでしょうか？



2022年4月25日（月）に行われたリニューアルオープン式典

以上



ホームページ : <https://www.jica.go.jp/jomm/index.html>

(経済)

企業の開業件数 4ヶ月で130万社超

2022年1月から4月までにブラジル国内で新設された会社の数は130万社を超え、前期比で11.5%増加しました。同期間に廃業した会社は54万1884社で、開業件数が廃業件数を80万8243件上回りました。この結果、存続企業数は1937万3257社に増えています。

詳細はこちら : <https://www.gov.br/economia/pt-br/centrais-de-conteudo/publicacoes/boletins/boletim-do-mapa-de-empresas/mapa-de-empresas-boletim-do-1o-quadrimestre-de-2022-1.pdf>

出所 : 経済省

\*\*\*\*\*

PwC ブラジル企業のESGへの取り組みを調査

企業は戦略の柱としてサステナビリティに注力し、取り組みの意図を明確に伝える努力をしています。その一方、ESG (環境・社会・企業統治) に関する議論では、重要なカギとなる指標である「税金」についてほとんど取り上げられないことがないという状況が続いています。

詳細はこちら : <https://www.pwc.com.br/pt/estudos/servicos/assessoria-tributaria-societaria/2022/tax-esg.html>

出所 : PwC

\*\*\*\*\*

ブラジル政府 アマゾン地域の科学イノベーションプログラムに3億8000万リアル投入

科学技術イノベーション省 ( MCTI ) はアマゾン地域の科学研究や技術開発支援事業に3億8000万リアルの資金を投入します。熱帯雨林の再生や監視プロジェクト、世界最大の熱帯雨林に設置されたサテライト研究所、生物多様性の研究、アサイーやクプアス、ピラルクなどの地域産品を中心としたバイオエコノミーチェーン、熱帯雨林のバイオエコノミー、大気調査、気候変動調査、ナノテクノロジー、先進素材、起業などが支援の対象となります。

動画はこちら : <https://www.youtube.com/watch?v=ueMyxTNbMKQ>

出所 : 科学技術イノベーション省